

福岡県の気象概況（2002年1月～12月）

福岡管区気象台

1月上旬：気温の変動が大きい、2日と8日は強い冬型気圧配置

上旬は、2日と8日は強い冬型の気圧配置となり寒気が入り冷え込んだが、7日は南から暖かい空気が流れ込み気温が上がるなど寒暖の変動が大きかった。1日と7日に寒冷前線が福岡県を南下した後、冬型の気圧配置が強まり、県内各地では1日から2日にかけて1～10mm、7日から8日にかけて0～5mmの降水を観測した。2日の最高気温は添田で2.7、黒木で3.0までしか上がらず、平年より5～7も低くなった。一方、7日の最高気温は前原で16.0、行橋で15.8となるなど平年より3～6も高くなった所が多かった。県内各地の旬平均気温は平年差-1.5～+0.1で、旬降水量は2～14mm（平年比11～49%）と少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年より低く、降水量は少なく、日照時間はかなり多かった。

1月中旬：雨や曇りの日が多い、気温がかなり高い

中旬は初め高気圧に覆われて晴れたが、その後は前線や低気圧の影響で雨や曇りの日が多かった。14日から17日にかけては前線や湿った空気の影響で、県内各地で13～39mmの雨が降った。20日は低気圧が九州の南海上を北東進したため、県内各地で0～9mmの雨が降った。気温は旬を通して平年より高めに経過した。特に15日は前原で最低気温が13.5と1月の日最低気温の最も高い値を記録し、また日最高気温も前原で20.2、福岡で19.8を観測するなど4月中旬から下旬並の陽気となった所が多かった。県内各地の旬平均気温は平年より4.6～5.4も高く、旬降水量は22～47mm（平年比80～151%）であった。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり高く、降水量と日照時間は平年並であった。

1月下旬：曇りや雨または雪の日が多い、26日は大雨

下旬は低気圧の影響や冬型の気圧配置となりやすかったため、曇りや雨または雪の日が多く、日照時間が平年より少なかった。21日から22日にかけては北日本で低気圧が発達して冬型の気圧配置が強まり、県内各地で4～22mmの降水を観測した。26日から27日にかけては低気圧が九州南岸を通過したため、県内各地で32～67mmの降水を観測した。特に26日は前原で日降水量51mmを観測し、1月の最も多い値を記録した。気温は、最低気温は平年より高めに経過し、最高気温は平年より低めに経過した。県内各地の旬平均気温は平年差-0.1～+0.7で、旬降水量は36～90mm（平年比215～390%）と多かった。

福岡の旬の平均気温は平年並、降水量はかなり多く、日照時間は少なかった。

2月上旬：晴れの日が多く、日照時間がかなり多い

上旬は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。このため日照時間は平年よりかなり多く、気温は平年より高めに経過した。5日は低気圧の影響で雲が広がったが、天気崩れは小さかった。10日は冬型の気圧配置となり、県内各地の日最高気温は平年より2前後低く、しぐれた所があり、県内各地で0～3mmの降水を観測した。県内各地の旬平均気温は平年より1.3～1.9高く、旬降水量は0～3mm（平年比0～9%）と少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量はかなり少なく、日照時間はかなり多かった。

2月中旬：日照時間がかなり多い、寒気が入り気温が低め

中旬は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。このため日照時間は平年よりかなり多かった。11日は冬型の気圧配置となり県内で1～4mmの降水を観測した所があった。17日は低気圧が九州南部を通過したため県内で1～2mmの降水を観測した所があったが、天気崩れは小さかった。気温は、旬の初めと終りに冬型の気圧配置となって寒気が流れ込んだため平年より低くなった。県内各地の旬平均気

温は平年より 0.1~1.4 低く、旬降水量は 0~6mm (平年比 0~12%) と少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年並、降水量はかなり少なく、日照時間はかなり多かった。

2月下旬：旬の初めと終わりに雨、気温が高い

下旬の中頃は高気圧に覆われて晴れたが、初めと終りは低気圧や前線の影響で曇りや雨となった。21日から22日にかけては前線が九州を南下したため、県内各地で7~24mmの雨が降った。27日から28日にかけては低気圧が九州南部を通過したため、県内各地で18~48mmの雨が降った。気温は、旬を通して平年より高く、各地とも旬の平均気温が3月中旬から下旬並となった。県内各地の旬平均気温は平年より2.9~3.6も高く、旬降水量は30~72mm(平年比89~188%)であった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は平年並であった。

3月上旬：晴れの日が多い、中頃はまとまった雨、10日は九州北部地方で春一番 寒暖の変動が大きい

上旬は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。このため日照時間は平年より多かった。5日から6日にかけては低気圧が九州北部を通過したため、県内各地で36~95mmのまとまった雨が降った。10日は低気圧が発達しながら日本海を東北東進したため、九州北部地方では南よりの暖かい風が強く吹いて気温が上昇した。このため、福岡管区气象台は「九州北部地方で春一番が吹いた」と発表した。6日から7日にかけては一時的に冬型の気圧配置となったため、各地の最高気温は2月上旬から中旬並に戻った。また10日の各地の最高気温は平年より5~7も高くなり、4月中旬から下旬並となるなど上旬は寒暖の変動が大きかった。県内各地の旬平均気温は平年より1.3~1.7高く、旬降水量は36~95mm(平年比106~202%)であった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量と日照時間は多かった。

3月中旬：晴れの日が多く、気温がかなり高い、15日は福岡でソメイヨシノ開花、20日は福岡で最高 気温 24.0

中旬は高気圧に覆われて晴れて暖かい日が多かった。このため日照時間は平年よりかなり多かった。14日から15日にかけては低気圧が対馬海峡を通過したため、県内各地で3~23mmの雨が降った。気温は平年よりかなり高めで経過し、旬の平均気温は各地とも4月上旬から中旬並となった。特に20日は暖かい南よりの風が吹いたため気温が上がり、最高気温は前原で23.1(3月の日最高気温の高い方からの第1位)、福岡で24.0を観測するなど各地で4月下旬から5月中旬並の陽気となった。県内各地の旬平均気温は平年より2.8~4.7も高く、旬降水量は3~23mm(平年比6~43%)と少なかった。

生物季節観測では、15日に福岡でソメイヨシノの開花(平年より11日早く)を観測した。また、15日から4日連続して黄砂を観測した。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり高く、降水量は少なく、日照時間はかなり多かった。

3月下旬：天気は周期的に変化、気温がかなり高い、25日は福岡でソメイヨシノ満開

下旬は低気圧や前線および高気圧が交互に通過し、天気は周期的に変化した。21日は沿海洲の発達中の低気圧に向かって強い南よりの風が吹き込み、福岡で最大瞬間風速24.3m/sを観測した。21日から22日にかけては寒冷前線が九州を南下したため、県内各地で11~63mmの雨が降った。26日から27日にかけては低気圧が九州北部を通過したため、県内各地で15~46mmの雨が降った。29日は低気圧が九州北岸と九州南岸をそれぞれ通過したため、県内各地で4~20mmの雨が降った。気温は、一時平年より低い時期もあったが、概ね平年より高く経過した。県内各地の旬平均気温は平年より1.0~2.0高く、旬降水量は52~115mm(平年比90~156%)であった。3月の月平均気温は県内全ての観測所で3月としては最も高い値を記録した。

生物季節観測では、25日に福岡で観測開始以来最も早くソメイヨシノの満開（平年より9日早く）を観測した。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり高く、降水量と日照時間は多かった。

4月上旬：気温がかなり高い、2日は添田で夏日、6日から7日はまとまった雨

上旬の前半は高気圧に覆われて晴れの日が多く、後半は前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多かった。6日から7日にかけては日本海の低気圧から伸びる寒冷前線が九州北部を通過したため、県内各地で15～87mmのまとまった雨が降った。気温は、旬の終わりに平年より低くなったが、その他の日は平年よりかなり高く経過し、日中は5月下旬並の陽気となった所があった。2日は添田で最高気温25を観測し、今年初めての夏日となった。県内各地の旬平均気温は平年より2.0～2.7高く、旬降水量は22～87mm（平年比45～168%）であった。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり高く、降水量は少なく、日照時間は多かった。

4月中旬：曇りや雨の日が多く、気温の変動が大きい

中旬は低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多かった。このため日照時間は平年より少なかった。15日は南から暖かい湿った空気が流れ込んだため大気の状態が不安定となり、16日は低気圧が朝鮮半島から日本海へ進み、17日は寒冷前線が九州を南下した。このため15日から17日にかけて県内各地で18～52mmの雨が降った。20日は低気圧が九州西岸に接近した影響で、県内各地で6～54mmの雨が降った。気温は初めと終りは平年より低かったが、中頃は南から暖かい湿った空気が流れ込んだため気温が上がり、5つの観測所で日最高気温が25以上の夏日となるなど、気温の変動が大きかった。県内各地の旬平均気温は平年より0.5～2.0高く、旬降水量は40～104mm（平年比112～209%）であった。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり高く、降水量は平年並、日照時間は少なかった。

4月下旬：曇りや雨の日が多く、日照時間がかなり少ない

下旬は低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多かった。このため日照時間は平年よりかなり少なかった。21日は低気圧が九州を通過したため、県内各地で3～38mmの雨が降り、23日は低気圧が朝鮮半島南岸を通過したため、県内各地で19～44mmの雨が降った。30日は前線が朝鮮半島南部から対馬海峡まで南下したため、県内各地で1～14mmの雨が降った。気温は、旬の初めと終りに暖かい空気が流れ込み平年を大きく上回った。特に29日の最高気温は前原で28.1、福岡で27.4を観測するなど夏日となった所が多かった。県内各地の旬平均気温は平年より1.2～2.2高く、旬降水量は30～75mm（平年比75～148%）であった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量は平年並、日照時間はかなり少なかった。

5月上旬：曇りや雨の日が多く、日照時間がかなり少ない、10日は日照不足に関する情報を発表

上旬は低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多かった。このため日照時間は平年よりかなり少なかった。1日は前線が九州南部に停滞したため、県内各地で12～83mmの雨が降った。3日から4日にかけては朝鮮半島南岸に停滞する前線がゆっくり九州を南下し、前線に向かって南から湿った空気が流れ込んだため大気の状態が不安定となり、県内各地で37～81mmのまとまった雨が降った。また、4月下旬から日照時間の少ない状態が続いており、中旬に入っても日照時間の少ない状態が続くとみられるため、福岡管区气象台は10日、福岡県に日照不足に関する気象情報を発表した。県内各地の旬平均気温は平年より0.2～2.2高く、旬降水量は103～188mm（平年比183～351%）と多かった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量はかなり多く、日照時間はかなり少なかった。

5月中旬：曇りや雨の日が多い、15日は大雨

中旬の初めと終りは高気圧に覆われて晴れたが、14日から17日にかけては低気圧や前線の影響で曇りや雨となった。14日から15日にかけては華中にある低気圧が九州北西岸をゆっくり東進したため、県内各地で75~204mmのまとまった雨が降った。特に15日の降水量は県内18の観測所の内12か所で100mmを超える大雨となり、頂吉、行橋、添田、甘木で5月の日降水量の多い値の第1位を記録した。18日から19日にかけては上空に寒気が流れ込んだ影響で、1~13mmの雨を観測した所があった。県内各地の旬平均気温は平年差-0.8~+0.3で、旬降水量は76~206mm(平年比107~279%)と多かった。

福岡の旬の平均気温は平年より低く、降水量は多く、日照時間はかなり少なかった。

5月下旬：晴れの日が多い

下旬は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。このため、各地とも日照時間が平年より多かった。28日は高気圧に覆われたが、上空に寒気が流れ込んだ影響で夕方から大気の状態が不安定となり、雷を伴って1~27mmの雨が降った所があった。30日は東シナ海の低気圧が接近した影響で、2~12mmの雨が降った所があった。県内各地の旬平均気温は平年より0.2~1.5高く、旬降水量は2~27mm(平年比5~70%)と少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量は少なく、日照時間は多かった。

6月上旬：晴れて暑い日が続く、6日は甘木で最高気温35を観測、九州北部地方は10日頃梅雨入り

上旬は9日まで高気圧に覆われて暑い日が続いた。特に6日は、強い日射の影響で内陸部を中心に気温が上がり、日最高気温は甘木で35.0、久留米で34.3など、飯塚、大牟田でも6月の最高気温の第1位を記録した。8日は福岡で今年初めて最高気温が30以上の真夏日となった。10日は朝鮮半島から対馬海峡へ前線が伸びだし、南から湿った空気が流れ込んだ影響で曇り一時雨となった。その後曇りや雨の日が多い見込みとなったため、福岡管区気象台は「九州北部地方は10日頃梅雨入りした」と発表した(平年は6月5日頃)。旬日照時間は平年よりかなり多く、添田、甘木、黒木では平年の2倍以上であった。県内各地の旬平均気温は平年より2.3~3.4も高く、旬降水量は0~12mm(平年比0~14%)と少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり高く、降水量はかなり少なく、日照時間はかなり多かった。

6月中旬：梅雨前線の影響は小さく、晴れの日が多い

中旬は梅雨前線が九州の南海上に停滞することが多く、福岡県は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。このため、県内のほとんどの観測所で日照時間が平年より多かった。11日は日本海の低気圧から伸びる寒冷前線が九州北部に南下したため、県内各地で3~22mmの雨が降った。13日は低気圧が対馬海峡を通過したため雷雨となり、県北部で5~22mmの雨が降った。19日から20日にかけては梅雨前線が九州付近まで北上したため、県内各地で17~42mmの雨が降った。県内各地の旬平均気温は平年より1.1~1.9高く、旬降水量は28~76mm(平年比25~65%)と少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量は少なく、日照時間は多かった。

6月下旬：中頃と終りにまとまった雨、寒気の影響で気温が低い

下旬は梅雨前線や低気圧の影響で中頃と終りにまとまった雨が降った。24日から25日にかけては低気圧が九州付近を通過したため、県内各地で21~87mmの雨が降った。29日から30日にかけては九州南部に停滞していた梅雨前線が北上し低気圧が九州北岸を通過したため、県内各地で11~69mmの雨が降った。気温は、24日に低気圧が九州付近を通過した後、北から寒気が入ったため、旬の平均気温は県内のほとんどの観測所で平年よりかなり低かった。特に25日の最高気温は飯塚、行橋、添田で20未満となるなど、各地で平年を4~8も下回った。旬日照時間は県内のほとんどの観測所で平年より多かった。県内各地の旬平均気温は平年より1.4~2.1低く、旬降水量は46~135mm(平年比30

~77%)と少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年より低く、降水量は少なく、日照時間は平年並であった。

7月上旬：曇りや雨の日が多い

上旬は梅雨前線が対馬海峡に停滞したことや、相次いで台風第5号と第6号の影響を受けたため、曇りや雨の日が多かった。1日は梅雨前線の活動が活発となり九千部山で6時までの1時間に47mmの激しい雨を観測した、その他の観測所でも1時間に20mmを超える強い雨を観測した。5日から6日にかけては台風第5号が東シナ海を北上し、黄海から朝鮮半島へ上陸した後日本海を北東進した影響で、県内各地で7~57mmの雨が降った。6日福岡では南南東の風22.6m/sの最大瞬間風速を観測した。9日から10日にかけては台風第6号が南大東島付近から北上し、四国の南から東海道沖へと北東に進んだため福岡県への影響は小さかったが、湿った空気が流れ込んだ影響で曇りや雨となった。県内各地の旬平均気温は平年より0.9~2.0 高く、旬降水量は29~182mm(平年比20~83%)であった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量は平年並、日照時間は少なかった。

7月中旬：曇りや雨の日が多い、16日は福岡で最高気温36.1

中旬の前半は台風第8号や第7号の影響を受け、後半は梅雨前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多かった。17日は九州北部にあった梅雨前線が九州の南海上まで南下し、18日には再び対馬海峡まで北上した。このため17日から18日にかけて県内各地で9~133mmの雨が降り、18日は柳川で4時までの1時間に56mmの非常に激しい雨を観測した。19日から20日にかけては低気圧の影響で県内各地で6~94mmの雨が降った。気温は、南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、最高気温が30以上の真夏日となった日が多かった。特に16日は強い日射のため福岡で最高気温36.1を観測した。県内各地の旬平均気温は平年より0.7~1.8 高く、旬降水量は29~193mm(平年比29~166%)であった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量と日照時間は平年並であった。

7月下旬：九州北部地方は21日頃梅雨明け、晴れて暑い日が多い

下旬は太平洋高気圧に覆われて晴れて暑い日が多く、県内12の観測所の内、宗像、行橋、前原を除く観測所で最高気温が30以上の真夏日が続いた。21日は梅雨前線が朝鮮半島まで北上し、太平洋高気圧に覆われたため、福岡管区気象台は「九州北部地方は21日頃梅雨明けした」と発表した(平年は7月18日頃)。25日から26日にかけては台風第9号が九州の西海上を西に進んだ影響で、県内各地で1~15mmの雨が降った。26日は福岡で南東の風16.9m/sの最大瞬間風速を観測した。30日から31日にかけては強い日射の影響で大気の状態が不安定となり、県内各地で1~35mmの雨が降った。県内各地の旬平均気温は平年より0.6~1.7 高く、旬降水量は1~42mm(平年比2~51%)と少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年並、降水量は少なく、日照時間は平年並であった。

8月上旬：前半は晴れの日が多い、後半は不安定な天気、厳しい暑さ続く

上旬の前半は太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多く、後半は南から湿った空気が流れ込んだ影響で、不安定な天気となった。気温は10日を除き、県内ほとんどの観測所で日最高気温が30以上の真夏日が続き、特に、9日は暖かい南よりの風の影響で気温が上がり、最高気温が甘木で35.9を観測したほか、八幡、宗像で35を超えた。6日から7日にかけて県内各地で1~20mm、また、9日から10日にかけて県内各地で3~71mmの雨が降った。県内各地の旬平均気温は平年より0.9~2.4 高く、旬降水量は4~94mm(平年比9~123%)であった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は平年並であった。

8月中旬：前半は曇りの日が多く、後半は晴れの日が多い、旬の終わりに気温下がる

中旬の前半は前線や湿った空気の影響で曇りの日が多かったが、後半は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。11日から13日にかけては対馬海峡付近に停滞する前線の影響で、県内各地で2~38mmの雨が降った。その後は太平洋高気圧に覆われたが、湿った空気の影響で雲が広がりやすかった。18日以降は台風第13号が日本の南から東海上へ次第に遠ざかり、福岡県は北から冷たい空気が流れ込んだため気温が平年を下回った。県内各地の旬平均気温は平年より0.1~0.9 低く、旬降水量は2~38mm(平年比4~61%)と少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年より低く、降水量はかなり少なく、日照時間は少なかった。

8月下旬：晴れの日が多い、23日は福岡県に少雨情報発表、31日は福岡で最大瞬間風速26.9m/s

下旬は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。気温は、旬の初めは北からの高気圧に覆われたため、21日に添田で15.3、22日に黒木で15.5の最低気温を観測し、8月の日最低気温の低い値の第1位を記録するなど平年を下回ったが、中頃からは再び太平洋高気圧に覆われたため厳しい残暑となった。23日から24日にかけては南から暖かい湿った空気が流れ込んで大気の状態が不安定となり、県内各地で5~68mmの雨が降った。30日から31日にかけては台風第15号が九州西海上を北上した影響で、県内各地で1~54mmの雨が降り、福岡では31日20時46分に南の風26.9m/sの最大瞬間風速を観測した。また梅雨明け以降、雨の少ない状態が続いており、その後も少雨を解消する雨は期待できない見込みとなったため、福岡管区気象台は23日福岡県に少雨に関する気象情報を発表した。県内各地の旬平均気温は平年差-0.4~+0.3で、旬降水量は8~104mm(平年比11~106%)であった。

福岡の旬の平均気温、降水量、日照時間はともに平年並であった。

9月上旬：晴れの日が多く、残暑が厳しい、雨の少ない状態続く

上旬は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。このため日照時間は平年よりかなり多かった。1日は朝鮮半島を北上する台風の流れ込む湿った空気の影響で、県内各地で1~13mmの雨が降った所があった。その後は九千部山を除き、県内で1mm以上の雨を観測した所はなかった。雨の少ない状態は今後も続く見込みとなったため、福岡管区気象台は2日と9日に「少雨に関する福岡県気象情報第2号・第3号」を発表した。気温は、前半を中心に太平洋高気圧に覆われたため厳しい残暑が続いた。特に、4日の最高気温は甘木で36.5、大牟田で34.6を記録し、9月の最高気温としては最も高い値となった。県内各地の旬平均気温は平年より0.8~2.1 高く、旬降水量は0~15mm(平年比0~13%)とかなり少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量はかなり少なく、日照時間はかなり多かった。

9月中旬：晴れの日が多かったが、16日は低気圧の影響で大雨、残暑は一段落

中旬は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。16日は低気圧が対馬海峡を通過し、この低気圧から伸びる寒冷前線が活動を強めながら九州北部を南下したため、県北部から中部を中心に大雨となり、太宰府で198mmを観測したのをはじめ、八幡、行橋、甘木の4つの観測所で9月の日降水量の第1位を記録した。これまで続いていた気温が高い状態は、中旬になって北から冷たい空気が流れ込むようになったため県北部では気温がほぼ平年並まで下がり、残暑は一段落した。県内各地の旬平均気温は平年差-0.2~+1.0で、旬降水量は21~198mm(平年比40~369%)であった。

福岡の旬の平均気温は平年並、降水量はかなり多く、日照時間は多かった。

9月下旬：晴れの日が多かったが、26日から28日にかけてはまとまった雨

下旬は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。23日から24日にかけては移動性高気圧に緩やかに覆われて晴れたため、明け方は放射冷却が効いて気温が下がり、24日の最低気温は黒木で11.0、甘木で12.1など、県内各地でこの秋一番の冷え込みとなった。26日から28日にかけては低気圧が九州南西海上から九州中部を通過した後、北陸付近に進んだため、県内各地で11~54mmの雨が降った。

県内各地の旬平均気温は平年差-0.3~+0.4 で、旬降水量は12~54mm(平年比18~98%)であった。
福岡の旬の平均気温と降水量は平年並、日照時間は多かった。

10月上旬：晴れの日が多い

上旬は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。6日は低気圧が沿海洲と九州北部をそれぞれ通過したため、県内各地で13~37mmの雨が降った。気温は、前半は平年より高めで経過し、5日の最高気温は飯塚で29.6を記録するなど、最高気温が25以上の夏日が続いた所が多く、後半は平年並か低めで経過し、9日の最低気温は黒木で7.9、甘木で9.1など、この秋初めて10を下回った所があった。県内各地の旬平均気温は平年差-0.1~+1.0で、旬降水量は13~37mm(平年比38~88%)であった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量と日照時間は平年並であった。

10月中旬：天気は周期的に変化、気温がかなり高い

中旬の天気は概ね周期的に変化した。13日は弱い気圧の谷が日本海を通過した影響で、県内各地で1~15mmの雨が降った。15日は日本海の低気圧から伸びる寒冷前線が九州を南下したため、雷を伴って県内各地で1~37mmの雨が降った。特に、甘木では14時までの1時間に28mmの強い雨を観測し、10月の日最大1時間降水量の第1位を記録した。18日から20日にかけては低気圧が華中東岸から九州の南海上をゆっくりと東進したため、県内各地で11~58mmの雨が降った。気温は、平年より高めで経過し、前半を中心に日最高気温が25以上の夏日の日が多かった。県内各地の旬平均気温は平年より1.0~1.7高く、旬降水量は16~70mm(平年比48~249%)であった。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり高く、降水量は多く、日照時間は平年並であった。

10月下旬：天気は周期的に変化、後半は冬型気圧配置となり気温が低い

下旬の天気は周期的に変化した。21日から23日にかけては寒気が流れ込んだ影響で、日本海で発生した低い雲が北部沿岸部に流れ込み、1~7mmの雨が降った所があった。27日から28日にかけてはこの秋初めて西高東低の冬型の気圧配置となって寒気が入り、海上で発生した雲が沿岸部に流れ込んだため、1~7mmの雨が降った所があった。29日から30日にかけては各地とも11月下旬並の肌寒さとなり、最低気温は29日に黒木で2.8、30日は甘木で3.3を観測するなど、各地でこの秋一番の冷え込みとなった。31日は東シナ海の低気圧が九州南西海上に接近したため、県内各地で14~39mmの雨が降った。県内各地の旬平均気温は平年より1.4~2.6低く、旬降水量は17~49mm(平年比115~304%)と多かった。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり低く、降水量は多く、日照時間はかなり少なかった。

11月上旬：冬型気圧配置となる日が多く、気温がかなり低い

上旬の中頃は高気圧に覆われて晴れたが、その他の日は冬型の気圧配置となり、しぐれて寒い日が多かった。このため旬の平均気温は、県内各地とも11月中旬から下旬並の寒さとなった。1日は低気圧が四国沖から関東の東海上へ進んだため、県内各地で11~26mmの雨が降った。2日から4日にかけては冬型の気圧配置が続き、県内各地で2~16mmの降水量を観測した。8日は真冬並の寒気が流れ込んで季節風も強まり、福岡では8日西の風19.7m/sの最大瞬間風速を観測した。また、8日は福岡でいちょうの黄葉(平年より1日遅い)と、イロハカエデ紅葉(平年より11日早い)を観測した。県内各地の旬平均気温は平年より2.3~4.6も低く、旬降水量は17~51mm(平年比65~192%)であった。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり低く、降水量と日照時間は平年並であった。

11月中旬：寒気が入り気温が低い、19日は福岡で初霜・初氷、黒木で最低気温-1.9

中旬の天気は概ね周期的に変化した。この旬は寒気が流れ込んだ影響

で、気温が平年より低い日が多かった。11日は寒冷前線が朝鮮半島南部まで南下したため、県内各地で1~12mmの雨が降った。18日は冬型の気圧配置となり、19日朝は放射冷却も加わり各地で気温が下がり、この秋初めて氷点下となった所があった。19日の最低気温は飯塚で-1.3、太宰府で-0.4を観測し、11月の日最低気温の低い方からの第1位を記録した。福岡では19日に初霜(平年より19日早い)と初氷(平年より26日早い)を観測した。また、12日は福岡で11月としては6年ぶりに黄砂を観測した。県内各地の旬平均気温は平年より2.0~2.6低く、旬降水量は0~14mm(平年比0~88%)と少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年より低く、降水量は少なく、日照時間は平年並であった。

11月下旬：晴れの日が多い、中頃は冬型気圧配置

下旬は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。25日から27日にかけては冬型の気圧配置となり、しぐれて1~5mmの降水を観測した所があった。特に26日は、上空に強い寒気が流れ込んだため大気の状態が不安定となり、福岡では雷を観測した。27日の各地の最高気温は10前後までしか上がらず、12月中旬から1月中旬並の冷え込みとなった。30日は低気圧が九州の南海上を東へ進んだため、県内各地で2~25mmの雨が降った。県内各地の旬平均気温は平年より1.0~1.6低く、旬降水量は1~25mm(平年比3~87%)と少なかった。

11月の平均気温は、県内全ての地域気象観測所で11月としては最も低い値を記録した。

福岡の旬の平均気温は平年並、降水量は少なく、日照時間は多かった。

12月上旬：曇や雨の日が多い、旬の終わりに厳しい寒さ、寒暖の変動が大きい

9日は福岡で初雪

上旬の前半は低気圧や前線の影響で、後半は寒気や冬型の気圧配置となった影響で曇りや雨の日が多かった。3日から4日にかけては低気圧が対馬海峡を通過したため、県内各地で22~40mmのまとまった雨が降り、太宰府では3日の日降水量が32mmで12月の日降水量の第1位となった。気温は、4日の最高気温が行橋で18.7まで上がるなど中頃は11月上旬から中旬並の気温となったが、旬の終わりになると最高気温が10を下回る厳しい寒さとなり、寒暖の変動が大きかった。9日は福岡で初雪(平年より4日早い、昨年より12日早い)を観測した。県内各地の旬平均気温は平年より1.0~2.0高く、旬降水量は27~60mm(平年比144~297%)と多かった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間はかなり少なかった。

12月中旬：前半は晴れの日が多く、後半は曇や雨

中旬の初めは冬型の気圧配置となったが次第に緩み、前半は晴れの晴れの日が多かった。後半は低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が続いた。16日は低気圧が日本海西部を東進したため、県内各地で2~22mmの雨が降った。18日から20日にかけては前線が九州の南海上に停滞し、前線上に発生した低気圧が東進したため、県内各地で9~17mmの雨が降った。気温は、初め強い寒気が流れ込んだ影響で各地とも最高気温が8前後までしか上がらず厳しい寒さとなったが、中頃は暖かい空気が流れ込み16日の最高気温は前原で17.2、添田で16.2となるなど、寒暖の変動が大きかった。14日の最低気温は、福岡と八幡を除く県内全ての観測所で氷点下となった。県内各地の旬平均気温は平年差-0.3~+0.5で、旬降水量は13~43mm(平年比114~204%)と多かった。

福岡の旬の平均気温は平年並、降水量は多く、日照時間は少なかった。

12月下旬：中頃は強い冬型気圧配置、曇りや雨またはみぞれの日が多い

下旬は低気圧や寒気の影響で曇り雨またはみぞれの日が多かった。21日は低気圧が四国沖を東進したため、県内各地で14~33mmの雨が降った。25日から26日にかけては冬型の気圧配置が強まり、しぐれて県内各地で1~31mmの降水を観測した。気温は、旬の初めは平年より高かったが、その後は寒

気が流れ込んだ影響で平年より低い日が続いた。県内各地の旬平均気温は平年差は-0.8～+0.3 で、旬降水量は17～65mm（平年比158～370%）と多かった。

12月の降水量は、行橋、太宰府、頂吉で月降水量の多い方からの第1位を記録した。また、12月の日照時間は、八幡と久留米を除く全ての観測所で月間日照時間の少ない方からの第1位を記録した。福岡の旬の平均気温は平年並、降水量は多く、日照時間は平年並であった。

福岡の月別値の階級区分

年 月	平均気温	降水量	日照時間
平成14年1月	かなり高い	多い	多い
平成14年2月	高い	少ない	かなり多い
平成14年3月	かなり高い	平年並	かなり多い
平成14年4月	かなり高い	少ない	かなり少ない
平成14年5月	平年並	かなり多い	かなり少ない
平成14年6月	高い	かなり少ない	かなり多い
平成14年7月	高い	少ない	少ない
平成14年8月	平年並	平年並	少ない
平成14年9月	平年並	平年並	かなり多い
平成14年10月	平年並	多い	少ない
平成14年11月	かなり低い	少ない	平年並
平成14年12月	平年並	かなり多い	かなり少ない

階級区分について

平成13年1月から使用を開始した1971～2000年統計値からは、「高い(多い)」、「平年並」、「低い(少ない)」の3階級を用い、平年から極端に異なった状況を表現する場合には、「かなり高い(多い)」、「かなり低い(少ない)」を補足的に用いることになりました。3階級の出現率は「33.3%、33.3%、33.3%」(1:1:1)の等確率で、「かなり高い(多い)」、「かなり低い(少ない)」の出現率は10%です。